



発行：NPO法人とよなか市民環境会議「アジェンダ21」
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P. 1 ワークショップ / P. 2 花と緑 / P. 3 企画屋本舗ハーブの寄せ植え / P. 4 水生生物観察会 / P. 5 環境とわたし / P. 6 産業部会 / P. 7 とよなか市民環境会議 / P. 8 総会

2004年(平成16年)9月号 NO. 8 (通巻第26号)

「豊中アジェンダ21」から「Newアジェンダ」へ ワークショップは順周に進んでいます

豊中アジェンダ21見直しの議論が今年春からはじまり、組織内での議論に続いてより広い市民の意見も入れた議論をしたいということでワークショップへの参加者を募集し、7月から月2回の日程で議論がはじまっています。

第1回は7月13日18時30分から福祉会館でおこない、この日はワークショップの趣旨説明など。できるだけ豊中アジェンダ21についての情報の共有と、今後の議論をスムーズに進めるために参加者がお互いを知り合うことから始めました。参加者は事務局を含め全員で32人。ワークショップは事務局を除き5グループに分かれて話し、なごやかな雰囲気の中で行われました。

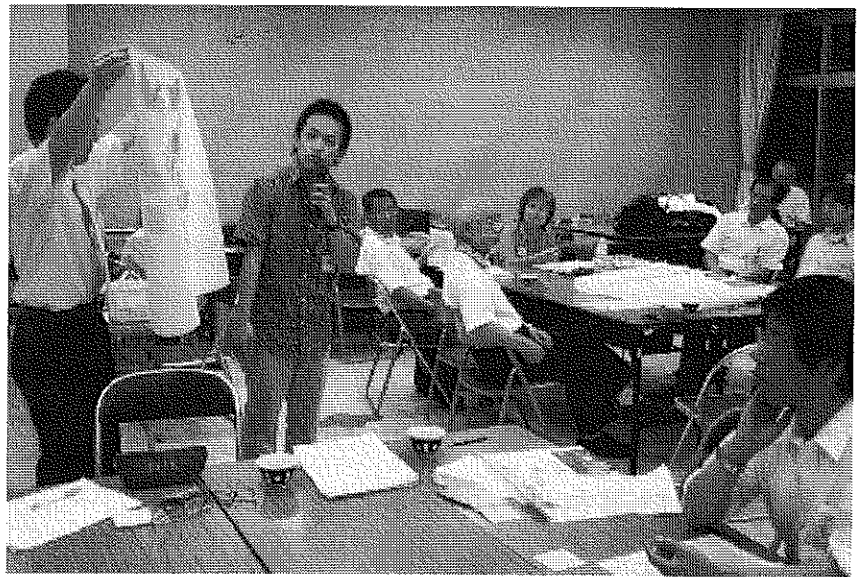
第2回は8月4日、前回と同じように福祉会館で開催。まず、京都のアジェンダから能村聡さんにきてもらい京都で取り組んでいるアジェンダの活動について話をききました。短時間の話でしたが、京都の醍醐で実現したゾーンバスの経験や、電気製品の省エネラベリングを小売店といっしょになって推進してきたことなどが、私たちが豊中でやっている運動と違うものだなあと感心したり、いろいろな感想を聞きました。

この日は、ワークショップの時間が少なかったので、「豊中市に住んでどんな点がいいか」でそれぞれ紙に書きだしてグループごとに話し。予想だになかった「交通機関の便利がいい」の意見が目立ちました。

また、前回に宿題として「アジェンダ21」の101項目を読んで感じたことを話ししようと思ったので、表に〇×をつけてもらい、それをできるだけ班ごとに集計したのと、感じたことをメモ用紙に書き話し。

テーブルごとのまとめの報告を聞いて感じられた点は、これまでアジェンダの部会内部で話ししてきたのと違って、①重要度に応じて強調した項目があってもよい、②内容が抽象的で一般の市民としては対応できない項目もある、(誰を対象にした項目なのかを区別すべきか?)、③2つの項目にまたがっていたり内容の重なっている感じのものがある、…など。

こうした話し内容をさらに整理し、部会ごとに話し



した点、環境展などで評価してもらったものなどとも併せて最終決定の貴重な資料になりそうです。

なお、新たに項目を起こしたい問題なども提起されていました。今後の話しが楽しみです。

アジェンダ21の見直しワークショップは、10月上旬まで全部で7回開く予定にしています。

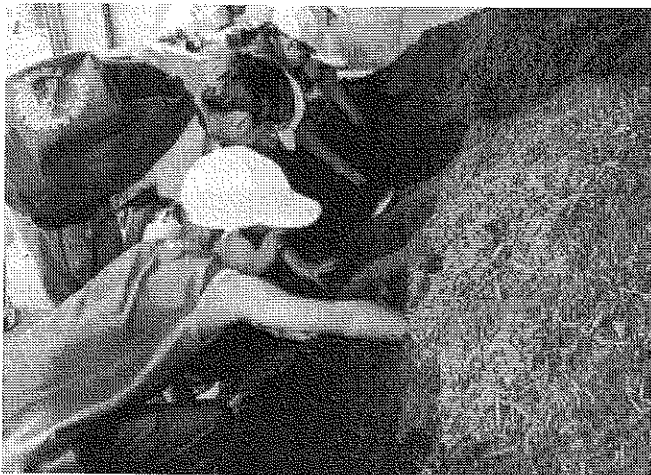
関心をお持ちの方はどうぞいつからでも参加してください。日程などは事務局へお問い合わせください。

(奥野享)

花と緑のネットワーク・桜塚小学校のプラザ見学

素手で堆肥に触れる子どもたちに「ほっ」

7月2日、徒歩にはちょうどいい曇り空。桜塚小学校の4年生103人が、クリーンランドや下水処理場の見学の前に「緑と食品のリサイクルプラザ」を訪れま



した。短い時間でしたが、小学校単位でのプラザ見学は初めてでした。

上田所長からプラザの設備について説明を聞いて見学するグループと、実際に熟成槽の「とよっぴー」やダンボール堆肥に触れながら食べ物の循環の話聞くグループに交互に分かれて体験しました。

自分たちの給食の残り物や調理くずが堆肥となり、土に返ってまた生かされることを、子どもたちは実感してくれたのでしょうか？ 期待をもって迎えたネットワークのメンバーに聞きました。

鼻を押さえた子もハンカチをはなす

小学校から子どもたちの足でたっぷり40分はかかったでしょうね。最初はハンカチで鼻をおさえている子もいましたが、きちんと並んですわって、可愛かったですよ！ メンバーのその日の朝食の生ごみを見せたり、そんな生ごみからできたダンボール堆肥の実物を見せたり・・・簡単な温度あてクイズのようなやりとりをしていくうちに、不思議とおいにも慣れたのか、ハンカチも当てなくなって・・・。「堆肥を触ってごらん！」と手本をみせると、こわごわと手のひらで触る子、指を入れる子、手でどんどん掘っていく子、一人一人の性格が出てきましたよ。どの子も素手で触れて、これにはちょっとびっくり！ 同時になんだか「ほっ」

としましたねえ。

「へえ！ 温度が60度に」

子どもたちは「へえ！ 堆肥の温度が60℃にもなってる！」「熱い！」と口々に歓声を上げていましたよ。堆肥の発酵の様子をじかに体験して、いろいろな質問をしていたのが印象的でしたねえ。こんなふうに子どもたちは、生ごみのリサイクルに関心を示し、こちらの問いかけにもきちんと反応してくれていたと思いますよ。

新しい体験を素直に歓迎してくれた

土からのものは土に返しましょねという話をしたら、子どもの一人から「お魚は土からのものじゃないけど・・・？」という素直な質問。そこで、「森の栄養物が川から海に流れていって、その栄養物をプランク



トンが食べて、それを小さなお魚が食べて、またそれを大きなお魚が食べて・・・」だから、「人間が食べたお魚の食べ残しは土に返そうね」と説明すると納得してくれた様子。そのあとダンボール堆肥を触ってきた子が私のところへ「お魚の骨があったよ！」と報告に来てくれました。また順番に堆肥を触って、友達同士で「あったかったねえ！」と話したりしていました。子どもたちは新しい体験を素直に歓迎してくれているようでした。こんな子どもたちがいれば、未来は明るい。そんなふうに感じられた、いい半日でしたよ！

(小村幸子)

企画屋本舗・ハーブの寄せ植えとおしゃべりサロン

猛暑が続くなか7月23日(金)に花とみどりの相談所(豊島公園)にてスタッフ含めて25名参加で行ないました。

準備段階では「とよっぴー」を使つての土作り、じょうろで水を撒きながら混ぜていきます。「夏は土が暑いので、鉢の中は蒸し風呂状態になります。そこで水で冷やしながらか混ぜます」との説明に三人のスタッフは納得。

さて寄せ植えでは5つのグループに分かれ、秋澤相談員を講師としてハーブの特徴・効用などの説明を聴きました。日本にもオリエンタルハーブと呼ばれる草花があるのですよ。(一同「へえ〜」)

苗は講師が用意していただいた分も入れてコモンセージ、クレーピングタイム、チャービルの3種類を寄せ植えしました。

続けておしゃべりサロン。熱いハーブティーの香りを楽しみながら、豊中市の環境について話し合いました。「もっと草花があり地域の人が水撒きできる場所

が欲しいですね」などとおしゃべりに熱が入ります。

今回使用した鉢は、障害者グループの方が制作した素焼きの植木鉢です。1つ300円でしたが、イタリア



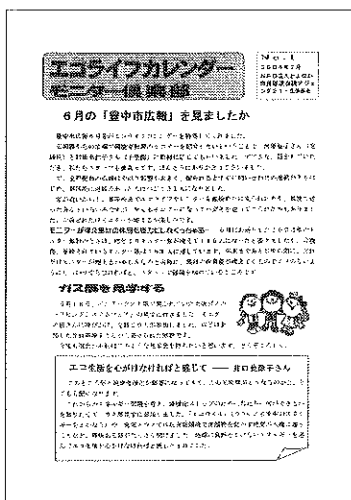
産の200円の鉢と比較して検討したのですが講師とスタッフが水はけの良さで考えた結果です。花とみどりの相談所の方々にいろいろお世話になりましたが、ハーブと環境、暑い日の楽しい一日でした。(池田一夫)

生活部会・環境家計簿モニターとの連絡を密に

新たにニュースレターの発行を始めました

「エコライフカレンダー・モニター倶楽部」の名前で、160人を超えたモニターと部会との間で情報交換のキャッチボールの関係を強めたいと、モニター通信の発行を計画し、7月に第1号が出されました。

これまでアジェンダ21の生活部会とモニターの皆さんとのつながりは、1年間のデータが集約できたときの報告書発行と、学習会を開くことぐらいでした。でも、昨年から年間集約のときにいろいろな家庭の事例研究も載せはじめたところ、それぞれの家庭での努力の姿が非常に興味深く、お互いに苦労されていることがよく見え、もっと相互の交流が必要ながことが痛感されていました。モニターからは、定期的に送られてくる二酸化炭素排出を書き込んだはがきに感想や意見が添えられてき



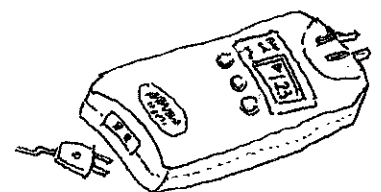
ますが、それらにも貴重な意見がたくさんあり、ぜひモニター全体で共有したいものだと思います、それらを紹介するためにも通信の発行が必要になっていました。

さしあたっては、A4判2ページで3カ月に1回ぐらゐの間隔の発行ですが、モニター間での相互の意見交換が豊かになることを願っています。

第1号では、インテックス大阪で開かれていた「ガス展」をいっしょに見学に行った感想。ワットワーマーター(待機電力の量がひと目で分かるのと、それが1カ月にどれくらいの電気代に相当するかなども積算できます)貸し出ししますという紹介などが、イラスト入りで記事になっており、省エネ生活に役に立つ情報をと配慮した記事が載せられています。

第2号の発行は10月に予定していますが、次は文字通りモニターの声を中心にしようと、トップ記事にはデータを送るはがきに載っていた感想・意見を掲載する予定です。どんな記事が載るかご期待ください。

(奥野享)



自然部会・水生生物観察会

箕面川の北の川原で

7月23日（金）、恒例になっている催しですが、いつもの千里川と違って、今年は箕面川で実施しました。

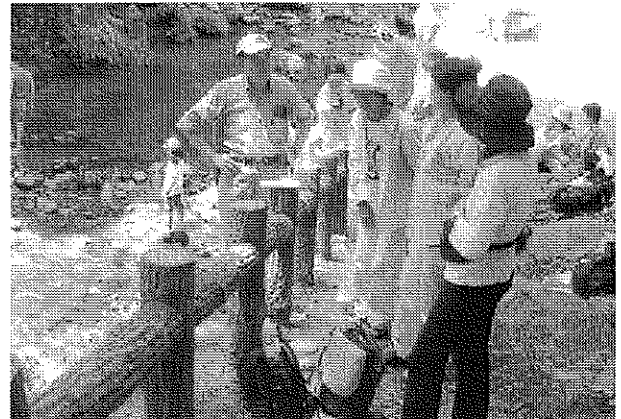
市役所前から19名がマイクロバスで出発。箕面駅で直行組24名と合流して、竜安寺の近くの北の川原へ。

晴天続きの川は滑りやすい事等、観察上の注意事項を確かめ合い、準備された網やピンセット等観察用具を借りて、川へ。「冷たい!」、千里川とは、ずいぶん違う。家族づれが多く、賑やかに楽しい観察が続いた。昼前になり、採集した生物を持ち寄り、個々の生物の特徴や名前を確かめ合った。

結果は、カワムツ、ナガレトビゲラ、ヒラタカゲロウ、サワガニ、カジカ、カワニナ等10数種類。それらの生物を水質との関係で調べると、この川は、「きれいな水」であることが判定できた。（河野猪太夫）

採集した生物は川へ戻した

箕面川に入ると、採集する親子の歓声が途切れることはなかった。午前中の採集が終了し、河野さん、山



口さんから全体的なお話を頂き、ケースに採集した生物は、元の川へ戻した。当日は好天に恵まれ、注意事項もよく守られて、無事観察会を終えた。

近年、家庭や工場や水田等から流れ出る排水により、川はどんどん汚されてきている。河川改修も進み、小さい川もコンクリートで固められてきた。これらの環境変化により、水生生物の多い少ない、また住みやすさ住みにくさが生じる。

これからは、豊中の河川も住みよい環境を守っていくための細かい配慮が必要である。（大塚 健治）

自然ふしぎ発見クラブがスタート

豊島公園で7月4日（土）10時～12時 第1回自然ふしぎ発見クラブを開催、テーマは「いろんなはっぱをみつけよう」 8月21日（土）に第2回「セミ



のぬけがらを探そう」を実施しました。第2回は、夏休みも終盤に入ったこともあったのか、第1回よりも多くの参加があり、セミにまつわるふしぎクイズ、紙芝居、セミの抜け穴探しや抜け殻探しと楽しく公園を回りました。参加者の通学校区も豊島北小、豊島小、桜塚小、原田小と様々で、広報とよなかを見ての参加でした。

この催しは豊島公園の旧みどりの相談所に環境情報サロンが6月に開設され、その運営を当NPOが担うことになり、アジェンダの事務局も同サロン内に設置されたことを機に、毎月1回実施を基本にスタートいたしました。このサロンを活用して豊島公園の自然環境を中心に、こどもたちに自然のふしぎや、面白さ、楽しさを体験する事により、近頃子どもたちに稀薄となっている、「自然のふしぎ」を不思議ととらえる力を付けてもらい、その不思議を「なぜ?」と考える思考能力を養うきっかけになればと考えています。

自然と触れ合い、自然の多様性や自然の循環の仕組みを理解することで、自然のいのちを大切に感じる感性豊かな次世代が育つことを目的にしています。このクラブでの体験を基礎に、将来、地球環境を改善してくれる豊中・地球市民となってくれますよう願っています。

第3回 9月25日「千里の雑木林を歩こう」

9:30～12:00 市のバスで千里中央公園へ

第4回 10月23日「秋のはっぱを見てみよう」

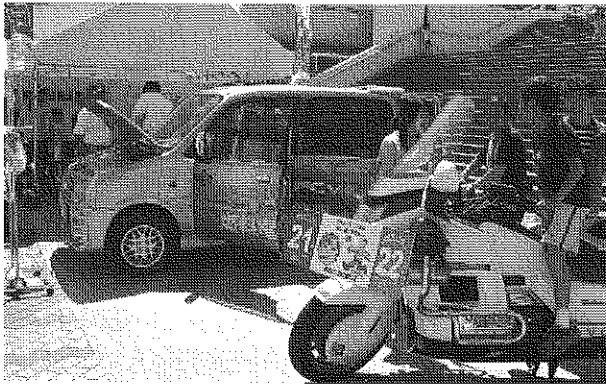
10:00～12:00 豊島公園 (岸田興次)

交通部会の活動あれこれ

交通部会は今年度も活動の中心となるテーマを“温暖化防止”とし、出来るだけ多くの団体などと協同しながら活動を進めていきたいと考えています。

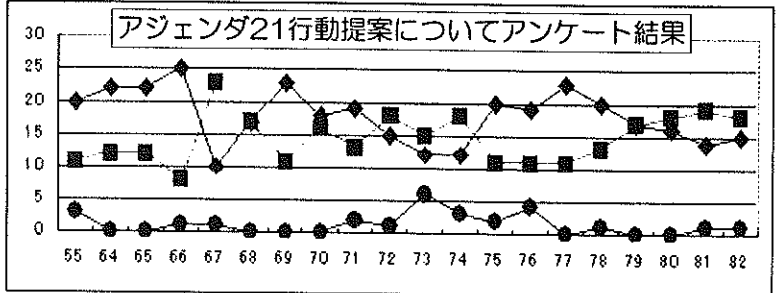
●6月5日(土)には大阪府と北摂7市3町が協働で取組んだノーマイカー推進キャンペーンとして《エリアで実感スムーズ北摂》が千里中央で開催され、豊中市と協働で参加しました。当日は、パネル展示と〔豊中アジェンダ21・行動提案101項目〕の内、交通に関する項目のアンケートを実施しました。

結果は、多くの方が日頃より環境に配慮した交通行動を心がけておられることがわかりました。特に、年齢や性別による違いは見られませんでした。



●6月26日(土)には、《第6回・通学路の安全を考えるシンポジウム》が、豊中市教職員組合、豊中市PTA 連合協議会、毎日新聞社の主催、交通部会他が共催で開催されました。

桜塚小の児童たちが、今もつらい思いを抱いている



凡例 □; すでに実行している ◆; 今後できるだけ心がける ●; 今後もしない

友達や家族の交通事故の悲惨さを訴え、パネル討論に入りました。ここでも、今の交通規則や信号などの設備が本当に歩行者を大切にしているとは言えない課題が訴えられ、通学路の整備が真剣に議論されました。

豊中市内では現在5カ所に歩車分離信号が導入されていますが、次善の策としてのこの信号システムの導入をアピールして閉会となりました。アジェンダ交通部会ではこのような取組は今後の課題です。

今、新しい市街地交通システムが多く紹介されています。これらは地球環境への負荷が少ないと同時に歩行者の安全確保や高齢社会における‘交通’としても優れているものが多く、実現を図るために多くの方たちと連携していきたいと考えます。

今年度後半の活動は見学会等このような視点も加え、多くの方がご参加いただけるよう期待しております。

(森岡秀幸)

環境とわたし

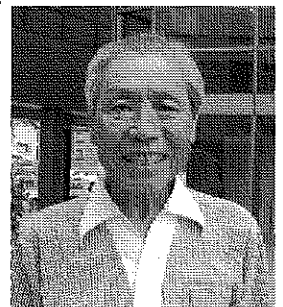
千里万博の1年前に念願の家を建てた。風呂にはガスがまともにも、木や紙を燃やせるように燃焼がまも取り付けた。生ごみは庭に穴を掘って埋めるようにした。

収集に出すごみ袋の中身は、空き缶・プラスチック・フィルム・ガラスびん・割れた食器くらいで、週にレジ袋で1袋くらいの少量であった。

その後、転勤で東京に住み、20数年ぶりで豊中に戻った。その時は、家庭で可燃ごみを燃やせなくなっていたので燃焼がまは撤去した。その代わりに、生ごみから本式の堆肥を作ろうと思った。

「広報とよなか」で密閉バケツ用EMボカシ(生ごみを堆肥化するための微生物)を頒布しているグ

浅井 正さん



ループの存在を知り、生協の駐車場に出かけた。そこで、高島さん(NPO花と緑のネットの現代表)に出会い、いろいろ質問しているうちに、メンバーになるように勧誘された。買い手が売り手に変身してしまった。どうして、そうなったか今でも不思議である。

花と緑のネットで何十人の仲間と友達になれた。環境は時間・空間・構成物など多様であるので、その取り組みは一人ではなんともならない。グループさらにネットワークこそが活動のキーポイントと痛感している。

産業部会・ISOと簡易版のマネジメントシステム

7月28日に「廉価な中小企業向け環境マネジメントシステムの取得方法」と題して豊中商工会議所環境委員会と共催で開かれました。参加者は47人で、資料が足りなくなるかと心配させられるほど大盛況でした。

企業の環境問題の取り組みと言えばISO14001の認証制度が国際基準としてよく知られています。現在世界全体で認証を受けた団体は5万団体、うち日本が1.4万団体で日本は3割近くを占めています。一方、欧州ではEMAS（イーマス）と呼ぶ独自の認証制度が作られてより取得しやすくなっている、というのが佐川直史さんの話でした。

関西でも、京都でKESと言う名の廉価な環境マネジメントシステムができています。以前にも学習会で聞きましたが、それ以外にも大阪府の環境カウンセラー協会が推進している制度などいろいろあります。それぞれについて紹介されました。



エコアクション21 まずNPO大阪環境カウンセラー協会の執行理事大畑明さんの話です。ISOは国際規格でありブランドとしてもよく知られ、国際的信用がつかます。それに比べるとエコアクション21（EA21）は国内企画であり今のところ知名度は低いですが、コストも安く中小企業向

けとして作られています。簡素化にも努力が払われ、要求項目は12項目、分かりやすい内容です。

エコステージ～環境経営評価・支援システム

エコステージについては、NPO法人イー・ピーイング理事長井上健雄さんから話がありました。

エコステージとは、認証取得を目的とせず、経営改善を通じて環境効率の向上を支援したり、供給側のグリーン化を連鎖させていく「環境経営」の支援システムです——と強調されました。

コンサルティングとレベル判定を通じて経営改善・改革を支援することがISOとの大きな相違点

です。5段階のステージで経営改善を評価すること、また評価料金もぐっと格安になっているのが特徴でした。いろいろな認証制度がありますが、企業にとってどれが環境技術としてまた体力としてもいちばんよいかを選択することがだいじであると締めくくられました。（奥野享）

産業部会・事業系一般廃棄物の減量化と問題点

産業部会では去る6月23日（水）、生活情報センター「くらしかん」において事業系ごみについての講演と勉強会を開催しました。

まず豊中市環境部廃棄物対策室の加藤進さんより豊中市の事業系ごみの収集・処理・処分の現状と課題について講演いただいた後に、大阪北生協環境問題推進担当の松井清武さんにごみに関する環境の取り組みやごみ分別について事業者の立場からお話をいただきました。その後産業部会コーディネーターの佐川直史さんに、事業系ごみの処理・処分の課題と再資源化の最新情報をレクチャーいただきました。

参加者からは「事業所内ではごみの分別に取り組んでいるが、収集は業者まかせになっているのでその後のどのような処理のされ方をしているのかは分からないという現状がある」という意見も出されました。市民の立場から見ると「市民はこつこつと真面目に分別し、ごみも減らそうと努力しているのに、同じクリーンラ

ンドで処理している事業系のごみはちゃんと分別されて入ってきているのだろうか？」という気持ちが否めません。今後は誰が見てもわかりやすく納得できるシステム作りが必要なのではないでしょうか。

また、事業系ごみには29%の資源化可能物が含まれているようで、豊中の事業者がごみをごみとして出さずにリサイクルを推進することがごみ減量の鍵となるようです。私たちの会としては事業者や行政に向けての提案や、協働で取り組める仕組みづくりが課題です。

市は「ごみ処理基本計画」に「市民・事業者・行政の三者の協働とパートナーシップによる取り組みを展開します」と掲げています。それが絵に描いた餅にならないように、私たちNPOができることは何かを探り、事業者や行政と共に新たな展開をしていきたいと話合っています。（茨木かづ子）

とよなか市民環境会議総会・記念講演会開催

6月25日(金)豊中市立市民会館にて、とよなか市民環境会議総会と記念講演会を開催しました。(NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 の総会と合同開催)

総会では、昨年度の活動内容や、今年度の役員体制と活動方針・計画案について、説明・了承されました。市や、活動組織であるNPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 と協働・連携して、次の地球環境保全活動を推進していきます。

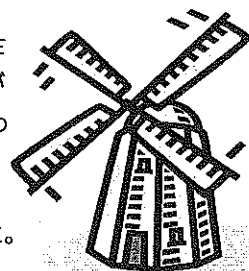
とよなか市民環境会議 平成 16 年度(2004 年度)活動計画案

1. 豊中アジェンダ 21・地球環境を守るとよなか市民行動計画 の推進 (NPO 法人 とよなか市民環境会議アジェンダ 21 との連携・協働によって推進していきます。)
2. 豊中市環境行政との連携 (環境報告書の作成や環境基本計画の中間見直し、環境情報サロンの充実などに対する支援・協働等、市と連携して活動していきます。)
3. 市民・事業者・行政による地球温暖化防止活動の推進
4. 循環型社会の構築

記念講演会では、「風車がおこすやさしい風」をテーマに、NPO 法人 森のエネルギーフォーラム理事長 増田頼保さんに、ご講演いただきました。

身の丈サイズのエネルギーや環境を考えてもらおうという趣旨のもと、手作り風車製作のプロジェクトを実施されています。プロジェクトでは、参加者が自由に風車にペイントをするなど、楽しんで環境にやさしい取組みにかかわっていく様子を、わかりやすくお話しいただきました。

増田さんご自身が、環境をよくするために、身近にかかわりのある部分から目を向け、取り組みを進められていることが、ご講演からよく伝わってきました。



市の取組みから***豊中市環境基本計画の中間見直しについて***

現在、環境審議会で、豊中市環境基本計画の中間見直しについて審議中です。骨子がかたまってきた時点で、市民のみなさんからご意見をいただく機会を設け、見直し内容に反映させていく予定です。環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の構築を目指し、環境基本計画と車の両輪の「豊中アジェンダ 21」の見直しと連携しながら進めています。

花と緑・市民発「生ごみ堆肥化助成制度」をはじめました!

豊中市がおこなってきた『生ごみ堆肥化容器等助成制度』が今年度から休止になりましたので、かわって7月から花と緑のネットワークが、行政から委託を受けて市民の皆さんに講習だけでなく堆肥化容器などの購入助成を始めています。

内容は堆肥化容器購入に対しての助成 コンポスト(3000円以内) 密閉容器(1500円以内)というささやかなものですが、ダンボール堆肥(身近なダンボールを使って堆肥化する方法)を試みようとする市民の方にも材料セットを差し上げるといいます。また、講習会をうけていただくことと、その後の

簡単な経過報告をお願いしています。失敗して結局やめてしまうことも多いのですが、そんなときちょっと相談にのってもらえる人がいると、また続けてみようと思うものです。花と緑のネットワークは身近な生ごみ友達として、情報交換したり、堆肥化にチャレンジしようとする市民の方のサポートをしていきたいと思っていますので、お気軽に事務局まで相談やお申し込みください。お待ちしております。(予算内での事業ですので、お早めに)

*電動式の堆肥化の助成はありませんので、お間違いのないようお願いいたします。(高島邦子)

2004年度総会を開きました

6月25日(金)に、NPO法人となってから初めての総会を、豊中市民会館大集会室で行いました。総会出席者は、会員170人中119人(内委任状51人)で有効に成立が確認され議事に入りました。

総会では、昨年1年間の活動報告、決算報告、監査報告を行ない、賛成多数の結果を得ました。次に、今年度の活動計画(案)、予算(案)が提案され、賛成多数により承認いただきました。最後に、「豊中アジェンダ21」の見直しと、初めての改選となった役員体制についても、賛成多数により承認いただきました。特に、「豊中アジェンダ21」の見直しについては、これまでの経緯や、今年度ワークショップを開いて既存の「豊中アジェンダ21」の見直しを行うことなどを説明し、参加した方々へ見直しについてのご理解をいただくことができました。

なお、今回の総会では参加者の方から積極的に質問が行なわれましたが、時間の関係などもあり、十分な説明ができなかったかもしれません。次回以降の総会では、時間配分も含め、参加者からより積極的に意見や疑問を出していただき、活発な総会にしていきたいと思えます。

また、総会に先立ちまして、NPO法人森のエネルギー



ギーフォーラム代表の増田頼保さんによる記念講演と、とよなか市民環境会議の総会も開催されました。記念講演では、増田さんからご自身の体験や自転車の車輪をリサイクルした「手作り風車」を作るたくさんの事例紹介を通して、エネルギーについて身近なところから考え・行動することを教えていただきました。身近なところから考え・行動するという事は、総会で承認いただいた「豊中アジェンダ21」の見直しでいかに取り入れていくかという課題でもありますので、総会の内容に即した良い記念講演となりました。

(廣田学)

編集室から

▼いろいろな知患者と出会うのがアジェンダの事務所に来ている、ときに得られる楽しい収穫である。ボランティアの集団ではあるが、雑談の中でかつてはその道の専門家だったろうん蓄が伝わってくる。そんなパワーが私たちの運動の味付けになっている。

(Z)

▼羽鷹下池周辺の樹木に巻きついているクズを刈る作業に参加した。クズは、古代に丸木舟で運ばれてきて、つるの生長の勢いから樹木には害草と言われていることは、余り知られていない。山野に住む人々が、クズの根から粉をとるのは、樹木を守るというねらいもあったのだろう。(W)

▼信号待ちの数分間はじれったいが時折いいことがあるので私は好きだ。先日は橋の下を泳いでいる1匹の小亀を見かけた。小さな手足を懸命にジタバタさせる姿が愛らしく、「そんなにあわててどちらへお出かけ?」と思わず声を掛けたくなった。(Y)

▼8月下旬、朝晩少し涼しくなった頃子どもとプールへ。日差しは強かったのですが、午後のプールは思ったより冷たく風邪をひきかけました。運動も自分の普段の状況と体調を考えて、無理せず、が大事なようです。(R)

▼大学のインターンシップ実習の学生さんが3名、8月から2週間ずつ入れ替わりで来ています。それぞれキャラクターが違いますが、みんな熱心に仕事に取り組み、事務局にフレッシュな空気を運んでくれました。彼らの今後の活躍に期待したいと思います。(J)

▼秋の訪れが待ち遠しいですね。私が待ってるのは、食欲の秋なんですけど…。昨年猛暑に見舞われたフランスは、良質のブドウでピンテージ。今年は冷夏のためブドウが不作で、ボジョレーヌーボーは水っぽいらしいですよ。これも地球温暖化の影響でしょうか?(P)

《広報チーム》

Z奥野、W岩瀬、Y小村、R大和、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp